



Yokkaichi city
Education
Center

平成21年度 四日市市立

教育センターニュース

No.4
9月16日発行

四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2(四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283(代) FAX (359)-0280 ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

▶ 特集 学校 ICT 環境整備事業の紹介
U-8(発達障害等早期支援事業)の紹介
重点課題研究推進校の紹介

ICT活用で授業を変える

国の緊急経済対策事業により、年度内に四日市市内の全小・中学校に電子黒板の配置や校内LAN整備を含む学校ICT環境整備が行われることとなりました。

ICTを活用することによって、今まで行っていた授業をわかりやすいものにするのが可能になります。例えば、国語のデジタル教科書を電子黒板上に大きく提示して課題を明確にしたり、調理をしている教師の手元を書画カメラで拡大提示しながら説明したりできます。単語や漢字などのフラッシュ教材を電子化し、くり返し提示して学習の定着を図ることもできます。

また、授業の準備や授業中の手間を短縮し、余剰時間に子どもたちとかわかることができます。例えば、あらかじめデータを保存しておくだけでも校内LANでインターネ

教育支援課 浅川 由子

ット上の動画教材を教室で見ることが可能なため、授業の準備時間を短縮することができます。電子黒板を使えば授業中に板書したり資料を貼ったりする手間も短縮することができ、その時間に子どもたちとかわかることができます。

実際に授業を体験した子どもたちからは、「どこを発音しているのかが変わって発音しやすかった」、「(英語)「今までは資料のどこを説明しているのかわかりにくかったけど、大きな画面で見ることができて今日の授業はよくわかった」(社会)という声があがっています。授業をした教員からは、「クリアな映像を見せるだけであんなにたくさん意見が出るとは思わなかった」、「余った時間で会話練習もでき、効率よく授業ができた」という声も聞いています。

しかし、ICTはわかる授業や子どもたちとかわかる時間を生み出すための便利な道具であって、それを使うことが目的ではありません。大切なことはICTをどのように活用して授業づくりをしていくのか、余剰時間を子どもたちのためにどのように活用していくのかということです。

本年度の教職員研修講座(校長研修)の講師である井上志朗先生は、「知恵と工夫のICT活用」とおっしゃっていました。まさにそのとおりだと思います。まず、みなさん一人一人がICT機器を操作してみて、その便利さを実感してください。そして、自身の授業を振り返り、知恵を出し合い工夫をして、ICT活用で授業を変えていきましょう。



電子黒板

U-8（発達障害等早期支援事業）の紹介

就学前からの途切れのない支援をめざして

教育委員会の相談支援センターでは、これまでも、不登校や発達に関する相談を行ってきました。10月からは新たに、知的な遅れを伴わない、4歳から8歳までの発達障害などのある子どもを対象とした「発達障害等早期支援事業（プロジェクト ^{アンダー}U-8）」を始めます。

この取り組みは、支援が必要な子どもたちが前向きな気持ちで小学校生活を送ることができるように、福祉部や保健所とも連携して小学校入学前から途切れのない支援を進めるものです。

自信を高めるための「4つの教室」

🌸 幼児ことばの教室

- 対象／4・5歳児
- 時間／1回50分（月～木曜日、週1回）

ごっこ遊びやゲームなど、楽しい活動の中で、言葉をやりとりする力、正しい発音で話す力、思いを言葉で相手に伝える力などを身に付けます。



🌸 ともだちづくり教室

- 対象／4歳児～小学校2年生
- 時間／1回70分（月・水曜日、2週間に1回、全6回）

個別や小集団での遊びやゲームなどを通して、友達とのかかわり方、気持ちの切り替え方、ルールの守り方など社会的に必要な技術（スキル）を身に付けます。



ともだちづくり教室と
子どもの見方・ほめ方教室は
同時に開催します

相談支援センター
（総合会館6階）

プレイセラピー
ルーム

🌸 子どもの見方・ほめ方教室

- 対象／ともだちづくり教室参加児童の保護者
- 時間／1回70分（月・水曜日、2週間に1回、全6回）

子どものよいところに気付き、褒めて、子どもの望ましい行動を増やしていく方法をグループで学び合います。



🌸 まなびの教室

- 対象／小学校1・2年生
- 時間／1回50分（月・火・木・金曜日、週2回、全8回）

学校と連携しながら、つまずきやその子の特性に応じた個別の支援を行い、聞く、読む、話す、書く、計算するなどの学習への困り感を減らします。



各教室実施
までの流れ



保護者

相談



保育園・幼稚園・学校

家庭児童相談室・
保健所

校・園内支援委員会で U-8 の対象児だと判断した場合、巡回教育相談につなげる。

相談

相談
申込

巡回教育相談（行動観察）

4 歳児教育相談
5 歳児就学相談

巡回相談員
教育支援課職員

小学生教育相談

地域特別支援教育コーディネーター
巡回相談員
教育支援課職員
スクールカウンセラー

教育支援課での発達に
関する教育相談

巡回教育相談の結果を受け、園・学校で協議

園・学校で保護者面談

U-8 申し込み

申込書（様式 1）を
教育支援課へ送付する。

教育支援課での初回面談・子どものアセスメント
（保護者と子どもで来所）

スタッフ会議で支援内容を決定し、保護者・園・学校に連絡
担任にアセスメント用紙を送付

学校は教育課程に係る申請書（様式 2）を
教育支援課へ送付する。

担任は、アセスメント用紙に記入し、
教育支援課へ送付する。

教室スタート

幼児ことばの
教室

まなび
の教室

ともだち
づくり教室

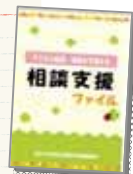
子どもの見方
ほめ方教室

園・学校・家庭での対応
必要に応じての来所相談

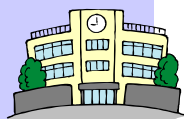
連携（情報交換・学校園訪問・保護者、職員の来所相談）

保育園・幼稚園・学校

「相談支援ファイ
ル（個別の教育支援
計画）」の作成



重点課題研究推進校の紹介



笹川西小学校（重点課題研究推進校 2年次）

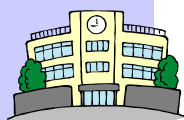
ICTを活用した体育科 ～タイムシフト再生で、自分の動きを振り返る～

笹川西小学校では、「自ら進んで生き生きと活動する子どもの育成～子どもが動きのおもしろさを感じながら、夢中を継続する授業の創造」をテーマに研究を推進しています。

テーマ実現のため、「動きのおもしろさを考慮した題材の設定をする」「学習の見通しや願いを持たせる」「できる手がかりをつかませる」「新たな視点に出合わせる」の4つを大切にしてい取り組んでいます。



写真は、6年生の体育の授業風景です。子どもたちが動きを振り返り、次の運動への意欲を高める目的から、体育館にカメラを設置し、30秒遅れで再生する「タイムシフト再生」を活用しました。映し出された自分の映像を見て、もっとこうしたいという願いをもつようになりました。この手立ては、「新たな視点に出合わせる」という本校のねらいを達成する上で、大変有効でした。



富田中学校（重点課題研究推進校 2年次）

「ループリック」を活用した学習行動評価とビデオによる授業研究

富田中学校では、「学び合う生徒集団の育成～学習行動の評価を通して～」をテーマに研究を推進しています。「ループリック」とは評価指針であり、コミュニケーション能力を「話す」「聞く」「協力」「応答」の4つのスキルに分割し、それぞれを5段階に評価する中で、学び合う生徒集団の育成を目指しています。



焦点化した場面



授業の全景

「すべての教員による授業研究を実施したい、しかし時間的な制約がある。」といった現状の中で生み出されたビデオ授業研修方式により、限られた時間を有効活用し、すべての教員による授業研究が可能となりました。研修会では、《授業の全景》と《焦点化した場面》の2画面方式によるVTRを活用し、「学び合い」における生徒の学習行動や教師のはたらきを検証します。

授業公開のお知らせ 富田中学校 11月17日（火）
笹川西小学校 1月28日（木）